

ストレス下母集団における分泌免疫グロブリン A に対するオステオパシーマニピュレーションの効果

Gregory Sagio, Salvatore Docimo, Jennifer Pilc, Jennifer Norton, Wolfgang Gilliar

抄録

背景: ヒト分泌免疫グロブリン A (sIgA) の高値は上気道感染症の発症率を低減させることがすでに示されている。また、オステオパシーマニピュレーション (OMT) は心係数を改善させ、胸管を通過するリンパ液の流れを増加させ、そして術後ならびに集中治療下にある患者において交感神経トーンを低下させることなどが報告されている。従って、OMT が高度な感情的・心理的ストレス下にある人々の sIgA レベルを増加させ、続いて免疫を強化し感染を予防すると仮説を立てた。

目的: OMT が高度なストレス下にある個人において sIgA レベルを増加させるか検証すること。

方法: 25 人のオステオパシー医学 2 年性がランダムに実験グループ (n=12) またはコントロールグループ (n=13) に割り当てられた。参加者全員が国家試験 (Comprehensive Osteopathic Medical Licensing Examination-USA) を実験の 2、3 週間後に受験する予定であった。被験者全員がベースライン sIgA の為の唾液サンプルを提出した後、実験グループは 20 分間の OMT を受けた一方、コントロールグループは別室で 20 分間静かに座りリラックスした。20 分間の OMT 後、両グループともに 1 時間静かに休憩し、2 回目の唾液サンプルを提出した。

結果: 2×2 反復測定分散分析により、実験グループはコントロールグループよ

りも介入後の sIgA レベルが統計学的に有意な上昇を示したことが明らかとなった(F1,23, 5.92; P<0.25)。

結論：この研究は、OMT の sIgA レベルに対する正の効果を示した。結果は、OMT が健常人ならびに入院患者、特に高度なストレス下であり上気道感染の高いリスクにさらされている人々に対して予防的効果を与える可能性を示唆している。

原論文

Saggio G., Docimo S., Pile J., Norton J., Gilliar W. (2011). Impact of osteopathic manipulative treatment on secretory immune a levels in as stressed population. J Am Osteopath Assoc. 2011 Mar;111(3):143-7.

翻訳者：江熊省吾 Bsc.(Hons.)Ost.Med., D.O.(UK), MRO(J)

